



女性の管理職を育てるII

株式会社ドウ・ワン・ソーイング
専務取締役

土井玲子



OMA

女性経営者シリーズ

工場の人員が7割を占める当社では、昨年課長と班長を増員しました。もちろん仕事に権限と責任を持ち、少しでもモチベーションを上げて頑張ってもらうためです。

生産工程の人員は9割が女性で、工場では1人だった女性課長が3人となり女性班長も増えたので、リーダーミーティングは女性が半数近くとなり雰囲気明るくなりました。女性らしい観点で率直な意見を述べ、むしろ人間関係で言いたいことを抑えている様子に見える男性よりはっきり発言し、的確に質問をすることも多々あります。

ところが女性の場合は、結婚となるとせっかく覚えた仕事を生かせないまま退職してしまったり、人間関係がもとで離職に繋がる場合もあり、現場の管理者からは、やっぱり女性はあてにならないとの声が出ます。男性なら頑張れるのには？

論理に基づきながら日々戦い、大切なものを守ろうとする男性と、感受性が強く仲間と分かち合い大切なものを育てる女性。妻として、母として多様な役割を果たすことは「力」になります。

結婚しても自立した対等の関係で、自分の人生を選択して生きるということは、まだまだ難しい日本社会のようです。育児休暇を取ったあと仕事に復帰しバリバリ頑張ってくれる社員もいるからこれは進歩です。今仕事を止めても復帰したい、自分の子供を入社させたい、と思う会社になろう。

女性管理者を育てるには長いスパンで成果をだせるよう取り組むことが大事だと痛感しています。

もちろん男女を問わず、仕事だけが生き甲斐でなくても良いけれど、人生の貴重な時間の大半を会社で過ごすのは事実です。自分を磨き、存在を他者からも認められ、今の自分に満足し、仕事と私生活が相互に良い影響を与える会社になろう。

工場の新入社員を中心に大阪・東京で自社商品を取り扱って頂くショップや市場を見学し、ファッションの最前線に触れてリフレッシュさせようと

昨年から国内研修を毎月続けています。

また、視野を広げる目的も兼ねる海外視察には、企画や営業の男性だけの参加でしたが、昨年からは女性が毎回参加するようになり来期も工場から3人目の女性がイタリアの展示会に行きます。

将来？子供に、「お母さんは一生懸命仕事をし認められて、会社からの推薦でイタリアに行ったこともあるよ」って言うと、子供が「お母さんすごいね！！」と、そんなシーンが目に浮かびます。

特にファッションの感度が求められ、企画や販促に貢献する受け持ち分担で仕事をしているのではなく、会社や業界に興味を持ち、自分の将来にも夢や希望をもって、楽しく日々の仕事に取り組んでほしいとの思いです。

日常、取引先と接することなく生産現場で黙々ともの造りに励んでくれる技術とパワーは当社にとってかけがえのない強み！「力」です。

業界では企画や販売は表舞台で華やかに見えますが、それと同等に素晴らしい商品を間違いなく作ることに全社員が協力し、自分の仕事に誇りを持つ会社にならなければ意味がありません。

当り前のことを当り前にやれる、自分の居場所がここだと信じて頑張れる社風を創りたいと思います。

プロフィール

昭和55年 土井縫工所入社

昭和57年 法人改組

株式会社ドウ・ワン・ソーイング

<http://do-1.co.jp/>

事業内容：メンズシャツの製造卸

メンズシャツWEB販売

<http://doihks.jp/index.html>

<http://doone.jp/>